

第9回旧川復元小委員会資料

1. 施工年次計画
 - 1-1. 施工年次計画
 - 1-2. 平成18年度実施内容
 - 1-3. 平成19年度実施予定
2. 移植・移動予定
 - 2-1. 移植・移動の考え方
 - 2-2. 平成18年度の移植状況
 - 2-3. 平成19年度の移植・移動予定
 - 2-4. 平成20年度の移植・移動予定
 - 2-5. 平成21年度の移植・移動予定
 - 2-6. 平成20年度以降の移植の確認項目
 - 2-7. 掘削箇所の裸地対策
 - 2-8. 地域との協働

1

1-1. 施工年次計画

第8回旧川復元小委員会（H18,9,15）において

旧川復元施工段階を5段階で示し、それぞれの段階の効果と費用を示した。
ご議論いただいた結果、主に以下のような意見をいただいた。



- ・茅沼地区はモデル地区として実施することになっている。段階5まで実施し、その後十分なモニタリングを実施して、その効果を他の地区の検討に資するべき。
- ・7年という工期は長すぎると思う。年数が長いほど川を汚すリスクが大きくなると思うので、もう一考してもらいたい。



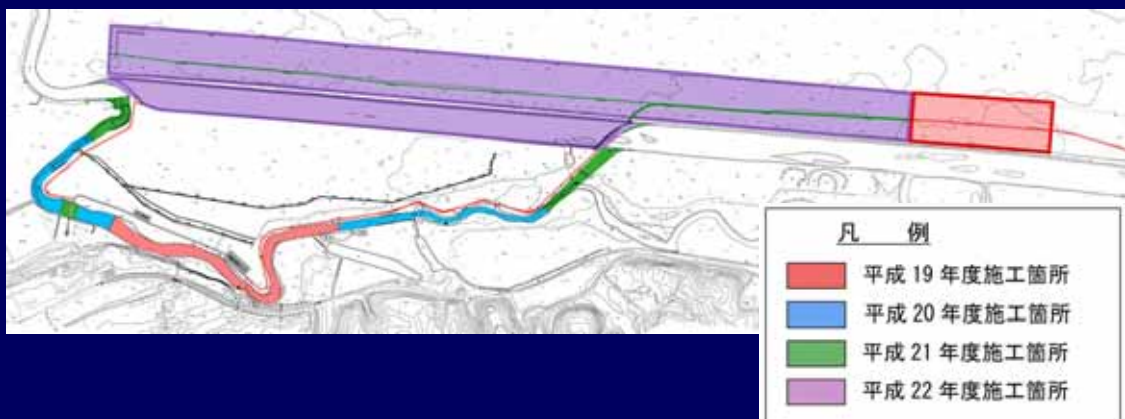
- ・委員会での議論を踏まえ、段階5を目指します。
- ・また、再検討した結果、工期を短縮致しました。

2

1-1. 施工年次計画

検討の結果、工期を5年に短縮する

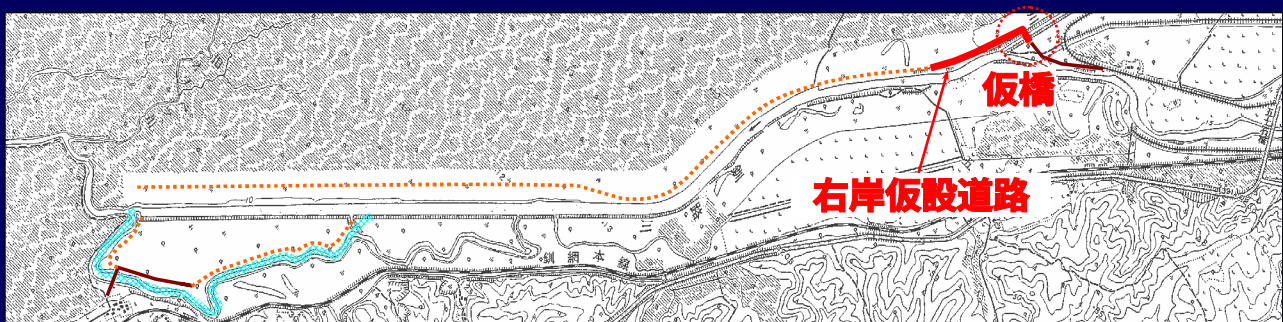
	項目	H18	H19	H20	H21	H22
施工 工程	仮設工					
	右岸残土撤去 (400m)					
	旧川掘削					
	直線河道埋戻し・右岸残土撤去					



3

1-2. 平成18年度実施内容 (仮設工)

右岸に渡る仮橋と、仮設道路の一部を施工



仮橋架橋状況



右岸仮設道路状況



4

1-2.平成18年度実施内容(仮設工) 主な配慮事項(1)

- ・ 仮橋の基礎杭打ち込み時に、従来機より低騒音及び低振動な重機を使用（油圧式可変超高周波杭打機）
 - ・ 他の重機についても、低騒音機を使用
 - ・ 可能な限り改変箇所（過去に盛り土した箇所）に運搬路を設置
 - ・ ジオグリットにより敷砂利の沈下を防止し、将来的に確実な仮設道路撤去を図る
 - ・ 専門技術者によるタンチョウの生息域調査を実施し、現場周辺のタンチョウの 行動状況を図化し現場従事者全員に周知。
 - ・ 作業箇所周辺にタンチョウが飛来した場合は、一次作業中止体制を確立。
- など

5

1-2.平成18年度実施内容(仮設工) 主な配慮事項(2)

仮橋の基礎杭打ち込み時に、従来機より低騒音及び低振動な重機を使用
（油圧式可変超高周波杭打機）



150m程度離れた箇所では、普通の会話程度
(63dB) の騒音レベル

6

1-2.平成18年度実施内容(仮設工) 主な配慮事項(3)

可能な限り改変箇所(過去に盛り土した箇所)に仮設道路を設置

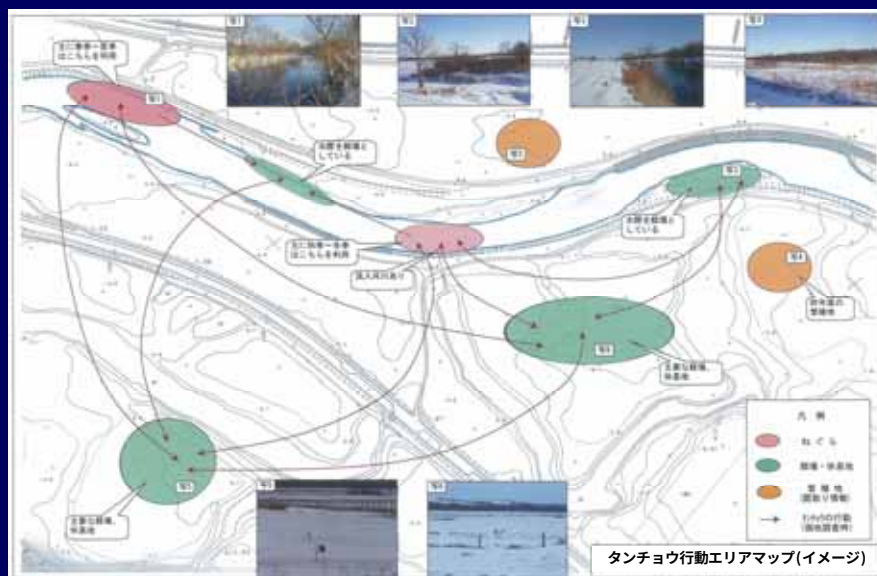


盛土箇所(裸地)を使用し、既存植生への影響を低減

7

1-2.平成18年度実施内容(仮設工) 主な配慮事項(4)

専門技術者によるタンチョウの生息域調査を実施し、現場周辺のタンチョウの行動状況を図化し現場従事者全員に周知。



上のようなマップを作成した
(ここに示すマップは架空のものである)

タンチョウ生息箇所への接近を避け、生息環境への影響を低減

8

1-3.平成19年度実施予定

旧川掘削(約900m)、右岸残土掘削(約400m)及び仮設工を施工



9

1-3.平成19年度実施予定(旧川掘削)

旧川掘削は、仮締切掘削を採用(第7回小委員会資料より)

水中掘削(浚渫)の問題点

- | | | |
|------------------------|---|---|
| ・沈木の除去が困難 | → | 別途除去作業が必要、費用増となる |
| ・掘削土の含水比が高い | → | 効率が悪く、土砂処理費も増加する |
| ・冬期は旧川が結氷 | → | 施工不可能、毎年船の搬入出が必要 |
| ・中島部など近隣に
排泥地の造成が必要 | → | 改変する面積が広く、環境影響が大きい |
| ・締切りを行わない工事 | → | 濁水の直接流出・拡散が懸念される
魚類等の保全(捕獲・移動)が困難となる |

※都合により、掲載できません。

※都合により、掲載できません。

仮締切掘削では、これらの問題が解消される

仮締切掘削を採用
(鋼矢板仮締切+バックホウドライ掘削)

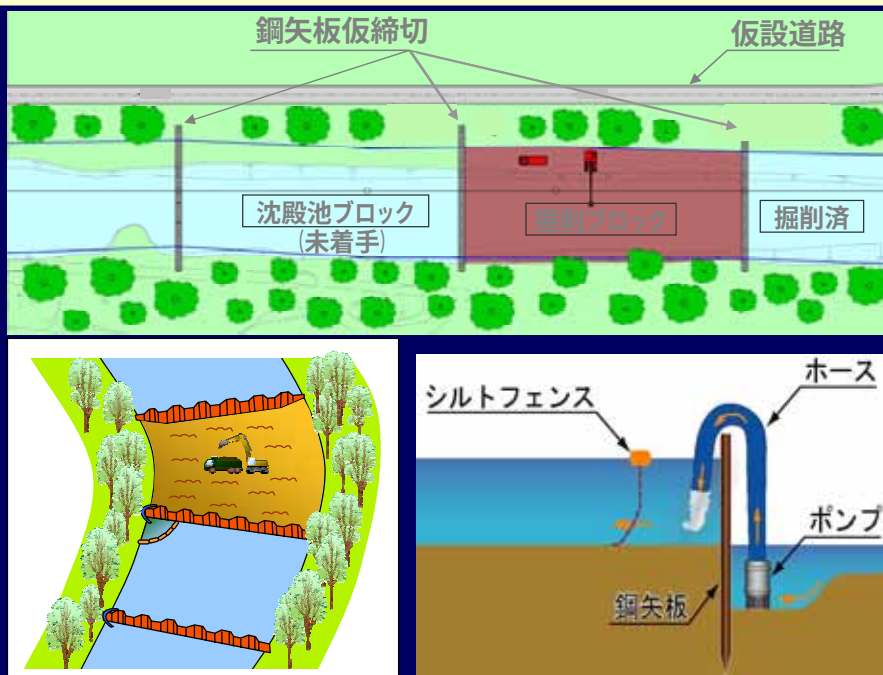


試験施工時

10

1-3.平成19年度実施予定(旧川掘削)

旧川を2ブロックに締切り、沈殿池と掘削箇所に使い分け、順次移設していく。

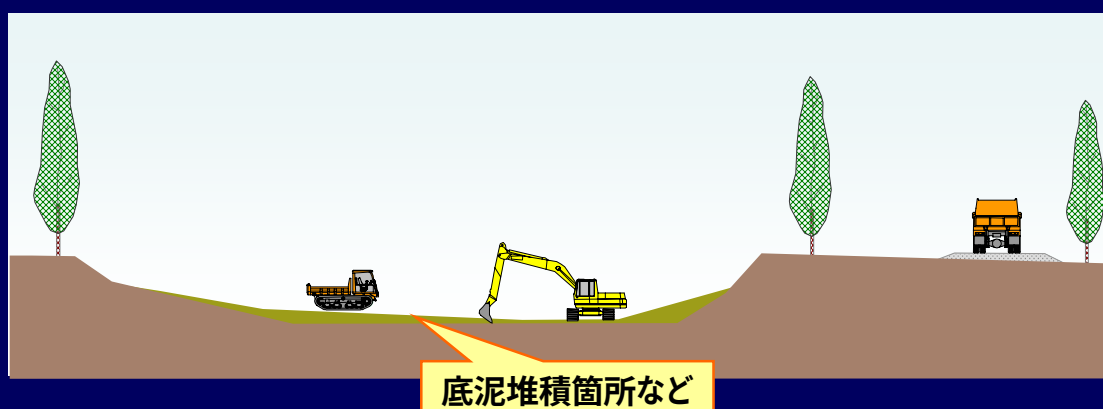


- ・シルトフェンスなどで、濁水流失を軽減
- ・既存樹木の影響が小さい箇所から重機などを搬入
- ・魚類等の移動により、生息への影響を低減する

11

1-3.平成19年度実施予定(旧川掘削)

掘削ブロック内は、底泥堆積箇所等を、バックホウ等で掘削する

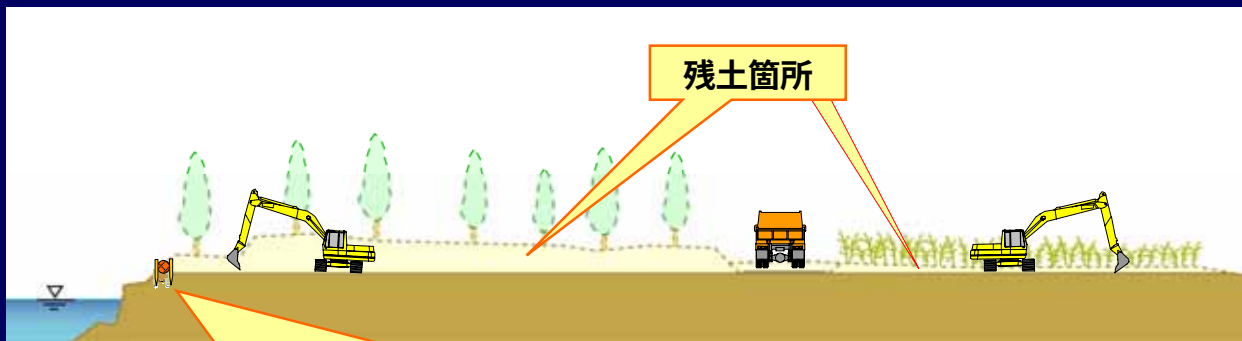


- ・掘削などに支障とならない沈木等は存置することに努める

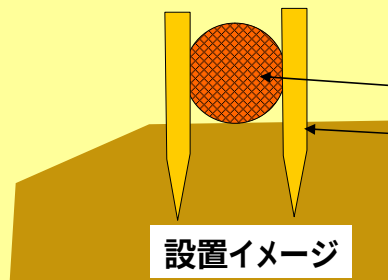
12

1-3.平成19年度実施予定 (右岸残土撤去 400m)

右岸残土は、周辺地盤高まで、バックホウ等で掘削する



ヤシ繊維を用いた濁水流出防止



ヤシ繊維束
木杭

13

1-3.平成19年度実施予定 (右岸残土撤去 400m)

主な配慮事項 (予定)

- ・ 直接改変箇所では、貴重種等の移植、移動を実施する
- ・ タンチョウの生息環境への影響を低減する。
- ・ 樹木等の影響が小さい運搬ルートを選定を図る。
- ・ 低騒音の重機を使用するよう努める。
- ・ スパッツなどの使用により、土砂散逸の低減を図る。

14